

第1章 本部会の活動方針

1.1 活動目的・方針

技術情報部会は平成11年に部会員を一新し新たに活動を開始した。本部会の目的は技術情報を鋼橋技術研究会の構成会員に伝えることであり、講演や講義形式の活動、およびホームページを用いた情報公開を主とした活動としている。講義、講演は本部会の委員のみでなく、鋼橋技術研究会に属する多くの人に参加を求め、部会として宣伝活動等、積極的に支援する。また昨今の海外における新技術や新素材等を取り上げ、WGの中で検討を行った。活動は全体の部会を2~3ヶ月に1回行い、各WGは随時開催し検討作業を進める。本報告書は平成11年度から平成13年度の3年間の部会活動の報告書であり、主として各WGの活動成果を報告するものである。

1.2 WGテーマについて

WGを決定するにあたり、部会員からの要望や意見につき議論をし、以下の4つのWGを発足させることにした。WG1、WG2はEurocodeやAASHTO/LRFD等の海外基準動向の把握と試設計による検討、WG3は既設ホームページの有効なリンク集の作成、WG4は新素材（FRP）ケーブルの適用性の検討を行った。

1.2.1 WG1 連続合成桁床版耐久性の向上WG

WG1はEUROCODE4を対象に、主に合成桁の床版の耐久性向上を目的としたコンクリートのひび割れ制御設計、及び合成桁の横座屈問題を中心に、EUROCODE4における考え方の基礎となっている論文の翻訳を行った。本報告書では第2章にまとめた。

1.2.2 WG2 少数主桁橋の安全率低減の可能性に関する検討WG

WG2は大きく以下の3つに分類される。WG2-1、WG2-3は共同で安全率と合成・非合成をパラメータにして検討を行っているので本報告書の第3章にまとめた。WG2-2は別途第4章にまとめた。

WG2-1：荷重抵抗係数設計法（LRFDを踏まえた安全率についての検討

WG2-2：海外橋梁（スイス：Des Vaux 橋）との比較検討

WG2-3：合成・非合成設計での差異についての検討

1.2.3 WG3 橋梁情報ホームページ作成WG

WG3は他のWGと異なり、橋梁のリンク集の作成であるため、鋼橋技術研究会のホームページに登録することで、報告としている。

リンク集 URL：http://www.kougiken.com/08_links/index.html

1.2.4 WG4 新素材ケーブルを用いた吊形式橋梁の開発WG

吊り形式橋梁において、1500m級から200m~300m級まで適応スパン、サグ比の影響、引張強度や安全率等をパラメータにした試設計による検討及び、軽くて強いという長所を生かした歩道橋での検討を行った。その成果は第5章にまとめた。